

## 施策6-1 自らの未来を主体的に切り拓き、秋田を支える気概に満ちた人材の育成

### 平成30年度の主な取組状況

#### (1) ふるさと教育を基盤としたキャリア教育の充実

- ①各校におけるキャリア教育の一層の充実を図るため、「地域の活性化に貢献する活動」や「体験的な活動」など取組の重点事項を掲げ、地域に根ざしたキャリア教育を推進
- ②児童生徒が職場体験を実施する際に県内企業等の体験先情報を検索できるウェブサイト「A-キャリアシステム」を平成30年8月に運用を開始
- ③働くことの意義や職業についての理解を深め、主体的に職業選択できる能力の育成を図るため、県立高校においてインターンシップを推進
- ④就職支援員による生徒の就職相談や県内求人開拓、企業情報の提供等のほか、職場定着支援員による離職防止に向けたセミナーの開催など、高校生の県内就職促進に向けた取組を実施
- ⑤大学等卒業後の県内就職の促進を図るため、高校生の将来設計を支援するキャリア探究アドバイザーを配置し、進学希望者によるインターンシップや、地域の課題等をテーマにした研究の取組を支援
- ⑥高校1年生を対象に、県内大学等を会場としたガイダンスや研究室訪問を実施し、大学で学ぶことができる学問の内容や卒業後の進路等について理解を深めること等を通じて将来設計を支援
- ⑦特別支援学校の職業教育では、職場開拓支援員を配置して新たな職域の開拓を行ったほか、事業所との連携による営農実習や職場実習など実践的な職業教育を計画的に実施

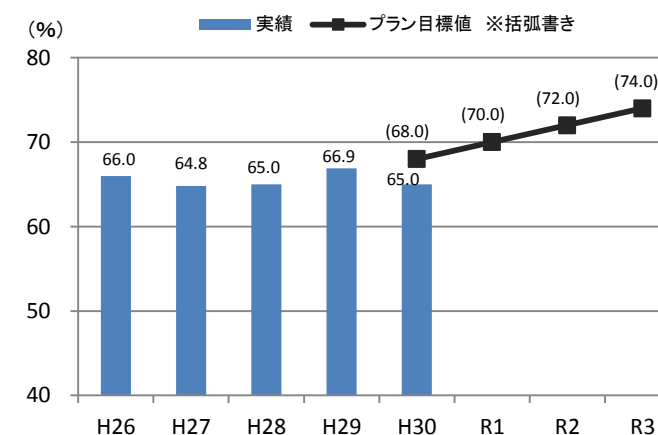
#### (2) 地元企業とのネットワークを生かした社会の要請に応える教育の充実

- ①秋田県産業教育フェアを開催し産業教育を通じた学びの成果を地域社会や産業界等に発信
- ②由利工業高校の「航空機関連の専門カリキュラム」の充実に向けて、航空機関連企業や先進校への視察、地域企業や大学と連携した取組を行うとともに、施設設備を充実
- ③情報関連産業人材の育成に向けて、高度な専門知識を有する外部人材を活用した課題研究等の実践的な学習を実施
- ④湯沢翔北高校専攻科において、地域の大学・企業との連携による専門的な講義や、福祉施設・地域企業等での長期間実習を実施
- ⑤専門高校において、新しい技術・技能の習得に対応した施設・設備を新規に導入したほか、老朽化した施設・設備を更新
- ⑥学習の深化や職業意識の育成のため、最新技術や専門知識を有する医師、技能者等の職業人による授業を実施
- ⑦農業、工業、商業等の専門学科で学ぶ高校生たちが地域産業祭や種苗交換会への参加を通してお互いの専門的な学習の成果を共有

#### 施策の数値目標

##### (1) 代表指標

高校生の県内就職率（公私立、全日制・定時制）



##### (2) 成果指標、業績指標

指標名	現状値 年度	年度 目標	H29	H30	R1	R2	R3
			実績	達成率	実績	達成率	実績
①将来の夢や目標をもっている児童生徒の割合(小6、中3)	85.6	目標	-	87.0	88.0	89.0	90.0
	H29	実績	85.6	87.1	-	-	-
	単位: %	達成率	-	100.1%	-	-	-
②地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある児童生徒の割合(小6、中3)	55.1	目標	-	57.0	59.0	61.0	63.0
	H29	実績	55.1	62.5	-	-	-
	単位: %	達成率	-	109.6%	-	-	-
③高校生のインターンシップ参加率(公立)	60.6	目標	-	63.0	64.0	65.0	66.0
	H28	実績	61.2	64.9	-	-	-
	単位: %	達成率	-	103.0%	-	-	-

### 主な課題

- ①地域企業等に対する理解を促進するとともに、企業の専門人材による実践的な学習を推進する必要がある。
- ②地域に根ざしたキャリア教育の充実に向けて、学校と家庭や地域、企業等との連携・協働が必要である。
- ③地域の活性化など地域課題に取り組むチャレンジ精神や起業家精神をもつ人材の育成を図る必要がある。
- ④進学校におけるインターンシップの参加率を高める必要がある。
- ⑤労働局などの関係機関との連携を強化し、生徒の希望に則した職種や、専門性を生かせる職場の開拓を進める必要がある。

### 今年度の主要事業等

- ①ふるさと教育の推進  
ふるさと教育を「学校教育の指針」の中で学校教育共通実践課題と位置付け、「豊かな心と郷土愛」「自ら学ぶ力」「高い志と公共の精神」を重点事項に掲げ、各学校において取組を実施
- ②キャリア教育実践研究事業  
県内全学校及び市町村教育委員会のキャリア教育担当者による協議会の開催、小・中学校における起業体験の推進、広域職場体験リストの作成と「A-キャリアシステム」での公開等を実施
- ③未来を拓く！秋田の高校生学び推進事業（キャリア教育充実事業）9,805千円  
大学で学ぶ学問や大学卒業後の職業等について理解を深めるガイダンスの実施、最新技術や専門知識を有する社会人講師による授業、専門高校のものづくり教育への支援、産業教育フェアの開催等を実施
- ④夢実現！高校生ステップアップ事業 87,249千円  
就職希望の多い高校に就職支援員（25名）、工業高校等就職支援員（4名）、地域毎に職場定着等を推進する職場定着支援員（4名）、大学進学後の県内就職の促進を図るためのキャリア探究アドバイザー（3名）を配置
- ⑤地域を支える人材育成事業 3,471千円  
高校2年生までの各事業所等でのインターンシップ、各高等学校が地域社会との結び付きを強化するための取組の支援等を実施
- ⑥「秋田の産業を担う」人材育成事業 3,888千円  
航空機産業人材の育成に向けた県内外の専門人材による特別講義、高度な資格取得のための集中研修や長期間の技術研修、航空機関連専門カリキュラムの充実、情報関連産業人材の育成に向けた専門人材の授業等への活用等を実施
- ⑦特別支援学校実践的職業教育推進事業 4,041千円  
職場開拓員（1名）の配置、開拓先事業所との連携による実践的な職業教育の実践、新たな職域の作業学習製品に係る備品整備、特別支援学校での職業教育フェスティバル及び職業教育フェア等を実施

## 施策6-2 子ども一人一人に応じた教育の充実と確かな学力の定着

### 平成30年度の主な取組状況

#### (1) 子ども一人一人に目を配り、その多様性に応えるきめ細かな特色ある教育の推進

- ①学校生活の安定化と基礎学力の定着・向上を図るため小・中学校全学年で30人程度学級を実施
- ②高等学校における少人数学級の拡大を図るため、新たに県立高校4校（大館鳳鳴、能代、秋田北、大曲）の第1学年において35人程度学級を実施
- ③実践的できめ細かな指導を行うため、専門高校（農業高校2校、工業高校5校）で社会人等外部人材を活用

#### (2) 自分で考え、表現し伝え合う能力の育成

- ①他者との対話や議論を通して児童生徒の思考を広げ深める授業ができるよう、学校訪問において指導・助言を実施
- ②全国学力・学習状況調査の結果の分析を行い、思考力・判断力・表現力等を伸ばす探究型の授業づくり等についてまとめた「学校改善支援プラン」を作成し、各学校において活用
- ③高等学校において「探究活動等実践モデル校」を指定し、主体的・対話的で深い学びの視点による授業の改善・充実に推進

#### (3) 一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実

- ①特別支援教育に関する専門性の向上を図るため、県内3地区で特別支援教育コーディネーターの研修会を開催
- ②発達障害等の高校生の学校生活や学習上の困難をサポートするため、県内3地区の各2校に1名ずつ学習サポーターを配置

#### (4) 就学前教育・保育の充実と小学校教育との円滑な接続

- ①県と大館市、男鹿市、横手市にモデル的に教育・保育アドバイザーを配置し、県と市町村が連携しながら、就学前施設への巡回指導や地域での研修等を実施
- ②小学校に入学直後の1年生が集団行動に適応できない「小1プロブレム」の発生を未然に防止するため、1学級の人数が30人から32人の小学校に学級担任を支援する非常勤職員を配置

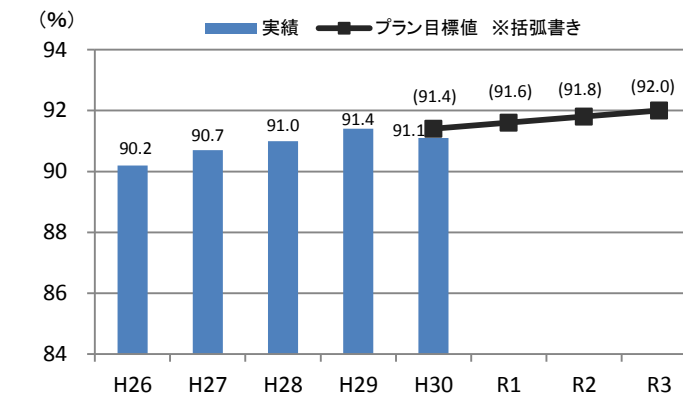
#### (5) 将来を牽引する科学技術人材の育成

- ①理数系教科に積極的に取り組む児童生徒を育成するため、中1及び中2を対象に「科学の甲子園ジュニア秋田県大会」を開催
- ②高等学校において科学的な思考力・表現力等を高めるため、理数科合同研修会や数学オリンピックセミナーを実施
- ③子どもたちの科学への興味・関心を伸ばすため、大学の教育資源等を活用した実践中心の科学講座等を開催

#### 施策の数値目標

##### (1) 代表指標

授業で自分の考えを発表する機会がよくあると思う児童生徒の割合（小4～中2）



##### (2) 成果指標、業績指標

指標名	現状値 年度	年度	H29	H30	R1	R2	R3
①国公立大学希望達成率(公私立、全日制)	54.0	目標	-	56.0	57.0	58.0	59.0
	H28	実績	51.4	5月下旬 判明	-	-	-
	単位:%	達成率	-	-	-	-	-
②特別支援教育に関する研修を受講した高校教員の割合	66.0	目標	-	75.0	84.0	92.0	100.0
	H29	実績	66.0	R2.3月頃 判明	-	-	-
	単位:%	達成率	-	-	-	-	-
③就学前教育・保育施設における小学校教育への接続を意識した指導計画の作成率	25.7	目標	-	65.0	70.0	75.0	80.0
	H28	実績	(未調査)	75.0	-	-	-
	単位:%	達成率	-	115.4%	-	-	-
④理科が好きだと思う児童生徒の割合	87.1	目標	-	87.7	88.0	88.3	88.6
	H28	実績	87.9	86.9	-	-	-
	単位:%	達成率	-	99.1%	-	-	-
⑤科学技術関係講座等の受講人数	4,272	目標	-	4,445	4,530	4,615	4,700
	H28	実績	4,319	5月下旬 判明	-	-	-
	単位:人	達成率	-	-	-	-	-

### 主な課題

- ①高校においてきめ細かな指導を行うため、小・中学校に引き続き、少人数学級の充実を図る必要がある。
- ②思考力・判断力・表現力等を育成する授業づくりの充実に向けて、学校訪問指導により各学校の実態に応じた支援を継続する必要がある。
- ③特別支援教育に関する校内年間計画等の作成は進んだが、計画的で組織的な実践や校種間連携を推進していく必要がある。
- ④就学前施設の多様化や非正規職員等の増加等により教育・保育の質の差が大きくなっており、訪問指導や研修会支援を継続する必要がある。
- ⑤第四次産業革命と呼ばれる技術革新の活用を念頭に置き、科学技術人材の育成に取り組む必要がある。

### 今年度の主要事業等

- ①少人数学習推進事業  
(7)小・中学校等における取組 602,693千円  
小・中学校全学年での30人程度の学級編制等のため、臨時講師81名、非常勤講師80名を配置
- (4)高等学校における取組 111,787千円  
高等学校における35人程度学級実施のため8校に臨時講師を配置するほか、農業高校・工業高校（専門高校）の少人数学習実施のための非常勤講師、習熟度別少人数学習実施のための非常勤講師を配置
- ②学力向上推進事業  
(7)小・中学校等における取組 6,683千円  
県学習状況調査、各校の授業改善支援、各教科の指導力向上研修、理数教科への興味・関心を高める学習の場の提供、本県教育力の情報発信等を実施
- (4)高等学校における取組 9,843千円  
県学力・学習状況調査、主体的・対話的で深い学びとなる学習・指導方法を研究するモデル校事業、科学的な思考力等を養うスーパーサイエンスプログラム等を実施
- ③わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業 11,050千円  
教育・保育アドバイザーの育成、地域の課題等に応じた研修会や情報交換会の開催、就学前施設への市町村との巡回訪問を実施
- ④特別支援教育体制整備推進事業等 1,833千円  
新任特別支援教育コーディネーター養成による園・校内支援体制の整備、専門家・支援チーム及び高等学校特別支援隊による支援、教職員等研修を実施
- ⑤みんなで創る特別支援教育推進事業 2,019千円  
全ての校種で、在籍する障害のある幼児児童生徒に適切な支援ができるよう、特別支援学校教員等による訪問指導、視覚支援学校・聴覚支援学校のサテライト教室、就学や教育に関する相談会など、早期からの教育相談を実施
- ⑥「科学者の卵」育成事業 1,157千円  
秋田大学、県立大学、公立美大と連携し、中高生を対象に実験中心の科学講座を開催するほか、中学生を対象としたモデルロケット製作・打上講習会を開催

## 施策6-3 世界で活躍できるグローバル人材の育成

### 平成30年度の主な取組状況

#### (1) 「英語力日本一」に向けた実践的な英語教育の推進

- ①小学3年生から高校3年生までを対象に、県内各地で児童生徒の発達段階に応じたイングリッシュキャンプを開催
- ②外部専門機関等との連携により、各校種の教員の指導力及び英語力の向上を図るとともにモデルとなる実践事例を県内各校に提示し成果を共有
- ③小学校高学年での英語教科化に対応するため、国際教養大学等と連携し教員の英語力及び指導力を高める研修を実施
- ④英語力の客観的指標となる外部試験を県内の中学2年生から高校3年生までを対象に実施

#### (2) 学校等における多様な国際教育の展開

- ①海外勤務・留学等の経験をもつ県内外の各分野で活躍する人材や県内大学で学ぶ留学体験者等を招き、講話や体験学習等を実施
- ②米国ミネソタ州セントクラウド州立大学での語学研修やスーパーサイエンスハイスクール指定校によるタイ王国のバンコク・クリスチャンカレッジ訪問による課題研究発表会等を実施
- ③学校が主体となって計画する2週間以上の海外短期研修の実施を支援
- ④生徒が英語でふるさと秋田の魅力を発信できることを目的に「秋田ふるさと紹介ハンドブック」を作成し県内の全ての中学2年生に配布したほか、県ウェブサイトからも写真や音声を活用して情報を発信

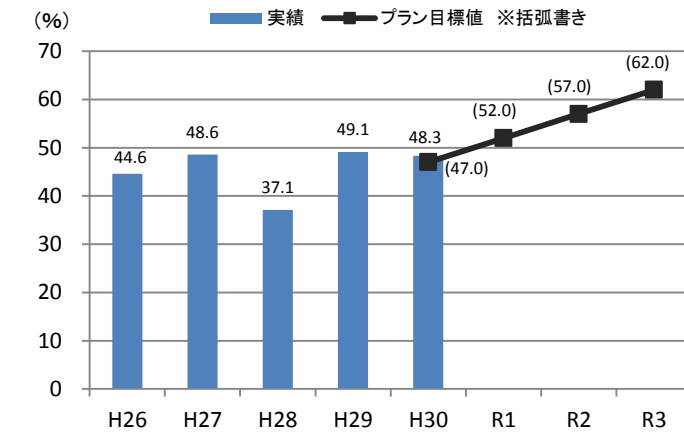
#### (3) 多様な国際交流及び国際理解の推進と多文化共生社会の構築

- ①中国2名（甘肅省、天津市）、韓国、英語圏、ロシア各1名、計5名を国際交流員を県国際課に配置し、地域住民の国際理解の推進や国際関連事業を実施
- ②県内の高校生をロシア沿海地方へ派遣し、現地の学生と文化活動等の交流を実施したほか、ロシアにおいて秋田の元気を発信する県内民間団体の取組に対し助成を実施
- ③県内の高校生を中国天津市へ派遣し、現地の学生と環境保護や文化活動等の交流を実施

#### 施策の数値目標

##### (1) 代表指標

英検3級以上相当の英語力を有する中学3年生の割合



##### (2) 成果指標、業績指標

指標名	現状値 年度	年度	H29	H30	R1	R2	R3
①イングリッシュキャンプに参加した児童生徒の割合	740	目標	-	755	770	785	800
	H29	実績	740	821	-	-	-
	単位: %	達成率	-	108.7%	-	-	-
②国際理解講座の実施件数	50	目標	-	50	50	50	50
	H28	実績	35	26	-	-	-
	単位: 件	達成率	-	52.0%	-	-	-
③外国語情報提供の実施件数	351	目標	-	264	274	284	294
	H28	実績	361	276	-	-	-
	単位: 件	達成率	-	104.5%	-	-	-

### 主な課題

- ①グローバル化の進展を踏まえ、児童生徒の英語コミュニケーション能力の一層の向上や異文化に対する理解促進等に向けた取組を進める必要がある。
- ②英語教育においては新学習指導要領を踏まえ、小・中・高等学校一貫した教育の一層の充実と、4技能5領域「聞く・読む・話す[やりとり]・話す[発表]・書く」をバランスよく育成するための取組等を充実させる必要がある。
- ③青少年交流等を中心とした多様な交流を推進し、グローバル社会で活躍できる国際感覚や世界的な視野を身に付けた人材を育成する必要がある。

### 今年度の主要事業等

#### ①AKITA英語コミュニケーション能力強化事業

##### (1) 授業改善プロジェクト事業 116,267千円

英語4技能5領域を総合的かつバランスよく育成できるよう、中・高英語教育研究協議会の開催、外部試験の活用、外国語指導助手（ALT）を活用した教育活動を実施

##### (2) 教員育成プロジェクト事業 837千円

英語教育の拡充強化に対応するため、小学校外国語教育集中実践セミナー、中・高等学校の英語担当教員授業力向上実践研修、小学校外国語教育実践研修を実施

##### (3) 異文化体験プロジェクト事業 18,675千円

国際感覚や世界的視野を身に付け、英語で積極的に発信できる児童生徒の育成のため、イングリッシュキャンプや高校生の語学研修、留学支援等を実施

#### ②スーパーグローバルハイスクール事業 6,800千円

語学力とともに、幅広い教養と問題解決能力等を身に付けたグローバル・リーダー育成のため、秋田南高校において課題研究や国際交流活動、外部機関との教育連携等を実施するとともに、成果の普及を推進

#### ③AKITAグローバルネットワーク事業 1,596千円

スーパーグローバルハイスクール事業の成果等を活用し、県立高校の指定校4校（大館国際情報学院、能代松陽、由利、横手清陵）において課題研究や国際交流活動等を実施するとともに、指定校間でその成果を共有

#### ④外国青年招致事業 25,757千円

外国語教育の充実や地域レベルでの国際交流を通じて、日本と諸外国との相互理解を推進し、地域の国際化の促進に資することを目的とする「語学指導等を行う外国青年招致事業（JETプログラム）」を活用して、地域住民の国際理解の推進や国際関連事業を実施

#### ⑤海外青少年交流事業 2,546千円

天津市の学生を受け入れ、県内の高校生と文化活動等の交流を実施

## 施策6-4 豊かな人間性と健やかな体の育成

### 平成30年度の主な取組状況

#### (1) 規範意識や他人への思いやりなど豊かな心の育成

- ① 道徳の時間（道徳科）をはじめ、様々な場面で教科書を使用し、児童生徒が道徳的価値についての考えを深め、実践につなげることができるように各学校における取組を推進
- ② スクールカウンセラー等の相談員を公立中学校・高等学校132校、各教育事務所等に配置し、悩みや不安を抱える児童生徒や保護者等を支援
- ③ 貧困に起因する虐待や不登校など、学校だけでは解決が難しい問題にきめ細かく対応するため、学校と福祉を繋ぐ専門的な知識や技術を有するスクールソーシャルワーカーを配置
- ④ いじめを早期に把握し解決に導くため、全ての公立高校の生徒を対象としたアンケート調査等を通じていじめの実態把握に努めたほか、いじめへの対応について共通理解を図るため、管理職向け研修会や教員向けの研究協議会を実施
- ⑤ 少年自然の家等において集団宿泊活動や問題解決型プログラムを導入した自然体験活動を実施

#### (2) 共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築

- ① 特別支援学校と小・中学校との交流及び共同学習を各学校や地域の状況に応じて進められており、事前学習として障害理解授業を実施する学校が増加
- ② 特別支援学校児童生徒による清掃活動や花苗プランター設置など地域貢献活動を継続的に実施しているほか、地域で開催されるイベント等については、計画段階から積極的に参画

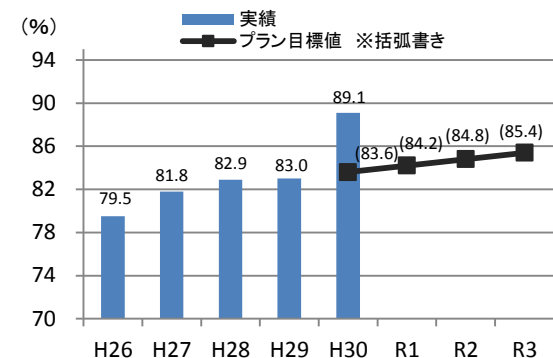
#### (3) 生涯にわたってたくましく生きるための健やかな体の育成

- ① 小・中学校の体育授業において運動やスポーツの専門性を有する地域人材等を指導者として派遣し、児童生徒の実態に応じた指導や安全性に配慮した質の高い授業を展開
- ② 全国大会等で活躍できるチームと選手の育成・強化を目指し、秋田型高校野球育成・強化プロジェクトとして関係団体と連携し、強化試合や投手の急速測定等を実施したほか、小・中学生についても練習会等を開催
- ③ 児童生徒の望ましい生活習慣の確立等を推進するため、モデル地区（三種町）において学校医・保護者・教職員・保健師からなる「健康支援チーム」を設置し、地元の小・中学校と家庭・地域が一体となって取組を展開
- ④ 安全安心な学校給食の実施による食育の推進を図るため、地域と連携した地場産物の活用や衛生管理の徹底、食物アレルギーに関する研修会等を実施

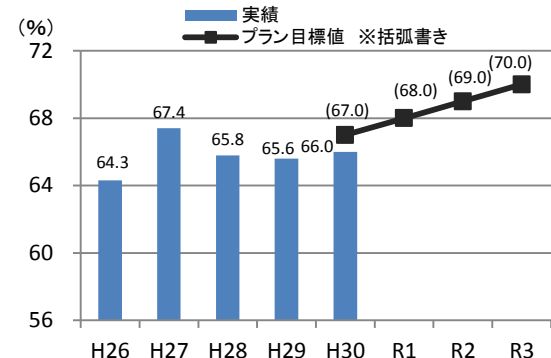
#### 施策の数値目標

##### (1) 代表指標

##### ① 自分にはよいところがあると思っている児童生徒の割合（小6、中3）



##### ② 運動やスポーツをすることが「好き」な児童生徒の割合（小5、中2）



##### (2) 成果指標、業績指標

指標名	現状値 年度	年度	H29	H30	R1	R2	R3
① 小・中学生の不登校児童生徒数（千人当たり、国公立）	9.1	目標	-	9.1	9.1	9.1	9.1
	H28	実績	10.8	10月判明 (速報)	-	-	-
	単位：人	達成率	-	-	-	-	-
② インターネットの健全利用に関する啓発講座等を実施した中学校区の割合	51.4	目標	-	70.0	80.0	90.0	100.0
	H28	実績	55.3	95.7	-	-	-
	単位：%	達成率	-	136.7%	-	-	-
③ 特別支援学校中等部生徒と中学生との居住地校交流の実施割合	18.4	目標	-	22.0	24.0	26.0	28.0
	H28	実績	14.9	21.6	-	-	-
	単位：%	達成率	-	98.2	-	-	-
④ 運動部活動における外部指導者の活用率（中・高等学校）	30.6	目標	-	32.0	33.0	34.0	35.0
	H29	実績	30.6	30.0	-	-	-
	単位：%	達成率	-	93.8%	-	-	-

### 主な課題

- ① 「特別の教科 道徳」が小・中学校で順次全面実施されることを踏まえ、引き続き家庭・地域との連携による道徳教育の充実に努める必要がある。
- ② 生徒や保護者の要望に応えるためにも、スクールカウンセラー等の専門技術を持つ相談員の配置を一層充実させる必要がある。
- ③ いじめに組織的かつ実効的に対応する体制の更なる充実が必要である。
- ④ 校種や学年が進むにつれて見られる運動習慣の二極化傾向を改善するため、発達の段階に応じた望ましい運動習慣を確立する必要がある。
- ⑤ 運動部活動については、少子化に伴う部員の減少から単独の学校での活動が困難な状況が散見されるため、関係組織等の連携による取組が必要がある。

### 今年度の主要事業等

- ① 学校・家庭・地域の連携による道徳教育の充実  
道徳科の授業を要とした教育活動全体における道徳教育の推進体制の確立、道徳科授業や生徒指導に関する協議会への保護者や地域住民の参加を促進
- ② 不登校・いじめ問題等対策事業 80,623千円  
スクールカウンセラー、広域カウンセラー、スクールソーシャルワーカーを配置するほか、フリーダイヤルの相談電話（すこやか電話）を設置
- ③ “心を育てる”セカンドスクール推進事業 9,422千円  
道徳の教科化や新学習指導要領に対応した学習プログラムの開発・提供、少年自然の家を拠点としたプロジェクトアドベンチャー体験プログラム、地域住民の参画による少年自然の家の運営に向けた地域協働体制整備の取組等を実施
- ④ 大人が支える！インターネットセーフティの推進 8,887千円  
県内の児童生徒に関するネットパトロールの推進、県庁出前講座等による健全利用の啓発、自然体験活動等を通じたネット依存対策等を実施
- ⑤ 障害の有無に関わらず、互いに人格と個性を尊重し合う教育の充実  
特別支援学校に在籍する児童生徒と居住地の小・中学校との交流の充実、小・中学校等への障害理解授業の推進、地域や関係機関等の活動やイベント等への積極的な参加等の取組を実施
- ⑥ 生きる力を育む体力づくり事業 1,348千円  
児童生徒の運動能力等の実態調査、体育授業への地域人材の派遣、中学校武道授業支援、スキー教室やスケート教室実施の支援等を実施
- ⑦ 運動部活動活カアップ事業 12,342千円  
中学校における運動部活動指導員配置の支援、中・高等学校の運動部活動に対する指導者の指導力向上、栄養指導、校種間連携等を実施
- ⑧ 健やか秋田っ子健康教育推進事業 2,598千円  
指定地域での健康課題解決への取組に対する支援、がん教育・性教育の推進、学校給食施設への訪問指導、県医師会等との連携による食物アレルギー研修、学校における食育推進リーダーの育成等を実施

## 施策6-5 子どもの成長を支える魅力的で良質な学びの場づくり

### 平成30年度の主な取組状況

#### (1) 質の高い学習の基盤となる教育環境の整備

- ①教員育成指標に示された各キャリアステージで求められる「マネジメント能力」「生徒指導力」「教科等指導力」「本県の教育課題への対応」の要素を各教職経験者研修に取り入れ再編成
- ②プログラミング教育の導入など今日的な教育課題を踏まえた研修内容等を改善
- ③「秋田の教育資産を活用した海外交流促進事業」の一環として探究型授業に基づく授業づくりについてタイ王国の連携教育機関関係者と共同研究を実施
- ④少人数学習を推進していく中で学校運営を持続的に安定させられるよう、非常勤講師を部分的に常勤の教員に代える措置をしたほか、小学校1年生の学校生活への適応を支援する非常勤講師を配置
- ⑤令和3年に開校予定の能代地区専門系統合校整備事業の設計業務を完了するとともに、秋田工業高等学校、比内支援学校、横手高等学校など老朽化した一部の県立学校の整備事業を推進
- ⑥奨学金の貸与や首都圏で学生寮を運営する（公財）秋田県育英会に事業費を助成

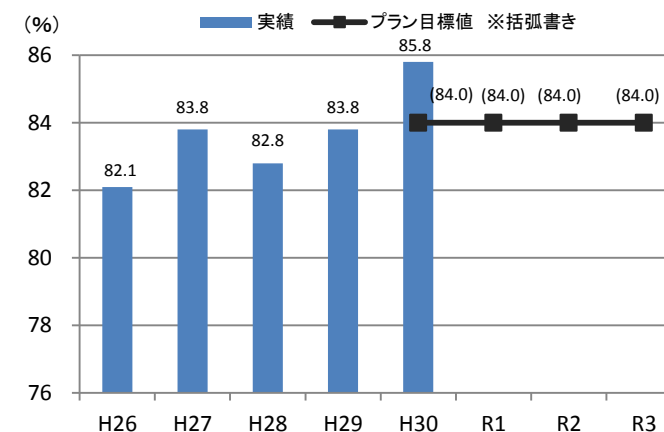
#### (2) 学校・家庭・地域の積極的な連携と協働による、子どもを育み家庭を支援する体制の構築

- ①学校と地域を結び付ける「地域学校協働活動推進員」や市町村内の地域学校協働活動の推進を図る「統括的推進員」を配置する経費等を市町村に助成
- ②地域で子どもを育む様々な事業の一体的な推進を図るため、地域学校協働活動推進員や地域連携担当教職員、放課後支援者等を対象とした研修会や協議会を開催
- ③地域が学校を支援する「学校支援活動」、児童に学習や体験活動の機会を提供する「放課後子ども教室」、児童生徒に地域人材による学習支援を行う「あきたわくわく未来ゼミ」を実施する市町村に助成
- ④県立学校の矢島高校、ゆり支援学校においてコミュニティ・スクール（CS）の取組をスタートさせたほか、市町村との連携や学校への助言を行うCSアドバイザー等を配置し、推進体制を構築
- ⑤管理職と学校安全担当教職員を対象とした学校安全三領域（生活安全・交通安全・災害安全）の研修会を開催
- ⑥安全に関する専門知識を有する外部指導者を学校に派遣し、講演や演習等の具体的な指導を実施

#### 施策の数値目標

##### (1) 代表指標

##### 授業の内容がよく分かると思う児童生徒の割合（小6、中3）



##### (2) 成果指標、業績指標

指標名	現状値 年度	年度	H29	H30	R1	R2	R3
①児童生徒のICT活用を指導することが「できる」「ややできる」とする教員の割合（小・中学校）	68.9	目標	-	72.3	73.3	74.3	75.3
	H28	実績	68.3	秋頃判明	-	-	-
	単位：%	達成率	-	-	-	-	-
②市町村における統括コーディネーターの配置率	-	目標	-	25.0	50.0	75.0	100.0
	H29	実績	-	16.0	-	-	-
	単位：%	達成率	-	64.0%	-	-	-
③地域と連携して防災訓練等を実施する学校の割合（公立、幼、小、中、高、特別支援）	41.3	目標	-	54.0	56.0	58.0	60.0
	H28	実績	46.7	46.7	-	-	-
	単位：%	達成率	-	86.5%	-	-	-

### 主な課題

- ①新学習指導要領の実施に向けた研修会等を一層充実させていく必要がある。
- ②県立高校の統合再編整備については、地域等の十分な理解を得ながら整備計画に基づき着実に進めていく必要がある。
- ③地域と学校の協働活動の推進に向けた人材育成やコミュニティ・スクール導入を推進する体制整備を進める必要がある。
- ④学校安全を推進するため、地域や保護者、関係機関等との連携を深めるための組織を各校に設置し、連携体制を強化する必要がある。
- ⑤各事業に配置された地域コーディネーターや教育活動推進員の高齢化に加え後継者不足が見られるため、人材育成や連携体制の強化に取り組む必要がある。

### 今年度の主要事業等

- ①教職員の資質能力の総合的な向上を図る研修の実施  
フォローアップ的要素を重視した初任者研修、教職員のニーズや今日的課題を踏まえた研修内容の改善、教員育成指標の検証等を実施
- ②県立学校の整備等 3,026,423千円  
能代地区専門系統合校、比内支援学校、横手高校、大曲高校の整備や、学校施設等の長寿命化を図るための維持管理を総合的に実施
- ③学校アシスタント配置事業 21,060千円  
小学1年生が集団行動がとれないなど学校生活になじめない「小1プロブレム」を防止するため、学級担任を支援する学校生活適応支援員を配置
- ④スクール・サポート・スタッフ配置事業 12,769千円  
複式学級等、課題を抱える小・中学校に教員の補助的業務を行うスクール・サポート・スタッフを配置
- ⑤育英事業助成費 230,739千円  
（公財）秋田県育英会に対し奨学金貸与及び学生寮の運営に必要な経費を助成

- ⑥私立学校運営費等補助 909,304千円  
私立学校教育の振興を図るため運営費等に対して助成
- ⑦学校・家庭・地域連携総合推進事業 59,197千円  
(7) 県が行う取組  
地域で核となる人材育成のための研修会、県立学校へのコミュニティ・スクール導入、CSアドバイザー等の配置  
(4) 市町村の取組への支援  
学校と地域の協働活動、家庭教育支援の体制整備、放課後子ども教室、あきたわくわく未来ゼミ等を行う市町村への支援等を実施
- ⑧学校安全推進事業 5,393千円  
学校安全推進委員会の開催、学校安全指導者研修会の開催、学校安全学校訪問、学校安全外部指導者の派遣、通学路安全対策アドバイザーの派遣、学校への巡回指導を行うスクールガードリーダーの配置等を実施

## 施策6-6 地域社会と産業の活性化に資する高等教育機関の振興

### 平成30年度の主な取組状況

#### (1) 特色ある資源を活用した教育・研究・社会貢献活動の充実

- ①産業構造の変化に対応するため、秋田県立大学においてシステム科学技術学部の学科再編を実施
- ②県内の高等教育機関において、学部や研究所等が持つ研究資源や成果を活用し、共同研究や受託研究等により県内企業が取り組む技術開発を支援
- ③県内企業の海外進出の促進を図るため、国際教養大学において海外での事業展開や起業を検討中の県内在住者を対象に語学講座や国内・海外研修を行う「Project GloAkitabai」を実施
- ④私立大学・短期大学・専修学校等が実施する積極的な地域貢献への取組、人口減少・高齢化社会における地域の課題解決につながる調査研究の取組等を支援

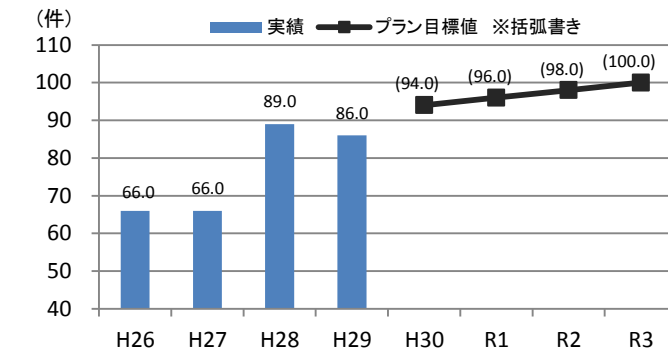
#### (2) 次代を担う優れた学生の確保と卒業生の県内定着の促進

- ①進学率の向上に向けて、公立大学法人（秋田県立大学、国際教養大学）が県内全ての高校を訪問しPR活動を実施
- ②優秀な県内出身学生を確保するため、公立大学法人が推薦入試など、特別選抜入試制度を見直し
- ③大学卒業後の県内定着を図るため、各高等教育機関において企業面談会やインターンシップなどを実施
- ④私立大学・短期大学・専修学校等が実施する県内の企業ニーズを踏まえた実践的な教育活動や県内就職促進につながる取組を支援

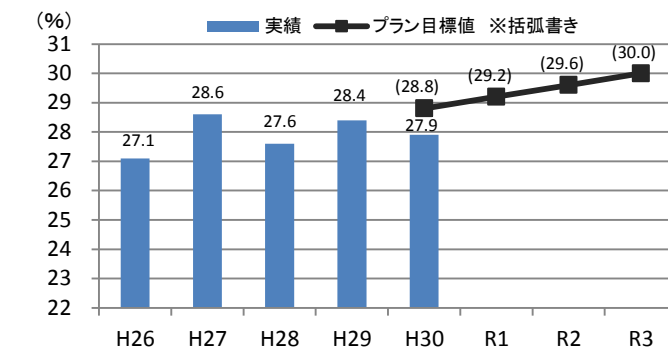
#### 施策の数値目標

##### (1) 代表指標

###### ① 県内高等教育機関による県内企業等との共同研究・受託研究数



###### ② 県内高卒者の県内大学・短大への進学率



##### (2) 成果指標、業績指標

指標名	現状値 年度	年度 目標	H29	H30	R1	R2	R3
			①県内大学生等の県内就職率	H28 実績 単位: %	達成率	42.2	45.3
			90.6%	-	-	-	-

### 主な課題

- ①人口の社会減の抑制を図るため、県内大学生等の県内就職率の向上に向けた取組を進める必要がある。
- ②引き続き「県内企業を知る機会」、「秋田を知る機会」の提供に努めるとともに、県内企業とタイアップした研究活動への取組と優れた人材を地域社会に輩出する取組を支援していく必要がある。
- ③航空機関連技術の開発、農業の6次産業化、新たな木質部材の開発や人材育成など、県の重点施策を踏まえた研究・教育活動、地域貢献に向けた取組を強化していく必要がある。

### 今年度の主要事業等

- ①秋田県立大学・国際教養大学運営事業 4,797,625千円  
両大学の円滑な運営を図るため、運営費等の一部について交付金を交付
- ②秋田県立大学施設設備等整備事業 205,460千円  
県立大学の教育環境向上のため、施設整備に要する経費に対し助成
- ③国際教養大学を起点としたグローバルビジネス人材育成事業 2,436千円  
県内企業の海外展開やインバウンドビジネスの促進を図るため、国際教養大学の教育資源を活用し、グローバルな視点を備えた企業人材を育成
- ④看護系大学・短期大学運営費補助金 319,130千円  
地域の医療・福祉を担う資質の高い人材を育成・確保するため、看護・福祉系大学等の運営費の一部を助成
- ⑤私立専修学校・各種学校運営費等補助金 23,033千円  
私立学校教育の振興を図るため、私立専修学校の運営費の一部を助成
- ⑥私立大学等即戦力人材育成支援事業 23,000千円  
県内の私立大学・短期大学・専修学校が実践的な職業教育を通して、県内産業の即戦力となる人材を育成するとともに、学生の県内定着を図るための取組に対して支援
- ⑦カレッジプラザ運営事業 6,143千円  
県内高等教育機関の教育研究資源を活用し、多様な教育機会を県民に提供するための拠点施設を運営
- ⑧高等教育費負担軽減事業 1,894千円  
高等教育費負担軽減制度の実施に先立ち、大学等が一定の要件を満たす必要があるため、その機関要件の確認事務等を実施

## 施策6-7 地域を元気にする住民参加の学びの場と芸術・文化に親しむ機会の提供

### 平成30年度の主な取組状況

#### (1) 多彩な学びの場づくりと学びを生かした地域づくりの推進

- ①「県庁出前講座」や「あきたスマートカレッジ」等、県生涯学習センターや公民館、学校などで多様なメニューの生涯学習講座を開催
- ②県内の生涯学習情報をインターネットで提供する「まなびサポート秋田」において、県内の学習講座のみならず数多くの講師やボランティア等の人材情報、イベント情報等を提供
- ③県立図書館において、人口問題や産業振興といった県の主要課題に関する図書資料を充実したほか、行政機関や外部機関と連携した図書・パネル展示の実施など情報提供を強化
- ④県立図書館の司書が市町村図書館や公民館図書室、県立学校図書館等を訪問して個々の課題に応じた情報提供や助言を行ったほか、貸出用図書セットを充実させることなどにより図書館運営を支援
- ⑤子どもの読書環境の充実を図るため、おはなし会やビブリオバトル等、各年代の子どもたちに応じた取組を行ったほか、読み聞かせボランティアの養成講座やボランティア交流会を開催し、読書に関わる人材を育成
- ⑥生涯を通じた読書活動を推進するため、「読んだッチ・リレー文庫」の配置、住民の身近な施設への図書コーナー設置支援、民間団体や市町村との協働による「県民読書の日」の普及啓発事業等を実施

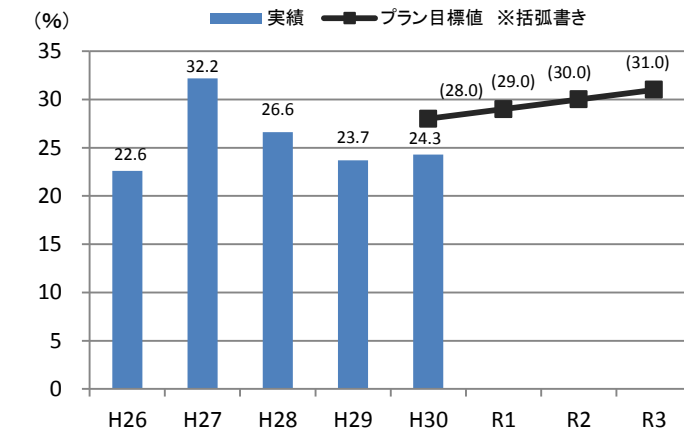
#### (2) 良質な芸術・文化体験機会の充実と文化遺産の保存・活用

- ①「秋田青少年劇場」によるミニコンサートや小・中学校向け演劇、文化庁「文化芸術による子どもの育成事業」による巡回公演のほか、県立美術館の大壁画「秋田の行事」鑑賞を推進する取組等により子どもの文化・芸術体験を推進
- ②美術館・博物館等におけるセカンドスクールの利用の推進を図るため、教員向けの研修会の開催や学校へ学習プログラムを広く周知
- ③博物館では特別展「あきた大鉄道展」、県立美術館では特別展「千住博展」、近代美術館では特別展「チームラボ！踊る！アート展と、学ぶ！未来の遊園地」等、県民が芸術・文化に親しみ、楽しめる企画展を開催
- ④H30年12月に「男鹿のナマハゲ」を含む「来訪神：仮面・仮装の神々」がユネスコ無形文化遺産に登録
- ⑤世界文化遺産登録を目指す「北海道・北東北の縄文遺跡群」を文化審議会が世界文化遺産推薦候補に選出
- ⑥重要文化財天徳寺の保存修理や、重要伝統的建造物群保存地区「横手市増田」の建造物修理、重要文化財「八幡神社」の防災施設整備等に助成
- ⑦小学校で実施してきた、民俗芸能を学び発表する体験学習等の機会を中学校に拡充
- ⑧北海道・東北地方で伝承されている民俗芸能を一般に公開する「第60回北海道・東北ブロック民俗芸能大会」を横手市で開催

#### 施策の数値目標

##### (1) 代表指標

##### 芸術・文化施設をセカンドスクールの利用した小・中学生の割合



##### (2) 成果指標、業績指標

指標名	現状値 年度	年度	H29	H30	R1	R2	R3
①生涯学習システムにおける生涯学習講座の登録件数	1,569	目標	-	2,100	2,300	2,500	2,700
	H28	実績	1,570	2,351	-	-	-
	単位:件	達成率	-	112.1%	-	-	-
②県立図書館司書による県立学校図書館への訪問支援等の実施件数	10	目標	-	20	25	30	30
	H29	実績	10	20	-	-	-
	単位:校	達成率	-	100.0%	-	-	-
③国・県指定等文化財の件数	758	目標	-	767	770	773	776
	H28	実績	764	771	-	-	-
	単位:件	達成率	-	100.5%	-	-	-

### 主な課題

- ①学んだ成果を地域に還元するための支援を充実させていく必要がある。
- ②子どもたちが読書活動をより主体的に行っていくための仕組みづくりに取り組む必要がある。
- ③芸術・文化施設のセカンドスクールの利用を推進するための効果的な方策を検討する必要がある。
- ④広く県民に芸術・文化に触れる機会を設けるため、美術館・博物館の出張展示や、出前授業等の館外活動を更に促進していく必要がある。
- ⑤各校において地域の歴史や文化への理解を深める「ふるさと教育」の一層の充実を図る必要がある。
- ⑥民俗文化財保護団体から活性化に向けた施策への要望が多いことから、取組を継続する必要がある。

### 今年度の主要事業等

- ①多彩な学びの場づくりと学びを生かした地域づくりの推進 4,308千円  
多様な学習機会に関する情報を収集しインターネットで県民に提供するほか、地域の中核となる人材の交流機会の拡大、県庁出前講座等を実施
- ②あきたスマートカレッジ事業 2,207千円  
県民が県内各地域の魅力や伝統・歴史などを知り、県民の地域理解と社会参加が促進されるような多彩な学びの機会を提供
- ③読書が広がるホップ・ステップ・ジャンプ事業 6,131千円  
おはなし会や調べ学習講座、読書ボランティアの養成、高校生の読書への関心を高める展示研修、学校訪問による読書活動推進に向けた助言等を実施
- ④県民読書環境整備事業 7,446千円  
子どもの読書環境の充実を図るとともに、住民の身近な施設への図書コーナー設置を支援するほか、「県民読書の日」啓発事業や読書の魅力発信事業等を実施
- ⑤ミュージアム活性化事業 48,803千円  
県立美術館、近代美術館、博物館における魅力ある特別展の開催
- ⑥芸術文化普及事業 838千円  
秋田県青少年劇場（コンサート、小中学生向け演劇等）の開催、文化庁事業（文化芸術による子どもの育成事業）による巡回公演等を実施
- ⑦世界遺産—縄文ルネサンス—事業 9,394千円  
世界遺産登録に向けた各種審査対策、国内フォーラムの開催、保存活用協議会の開催、あきたの縄文遺産パスポート小学生版の配布等を実施
- ⑧民俗文化財活性化事業 2,851千円  
小・中学校を中心とした公開交流事業の実施、用具修理や後継者育成事業への助成等を実施
- ⑨埋蔵文化財分布発掘調査事業 104,173千円  
道路建設及び河川改修等が計画されている区域における埋蔵文化財の分布調査、保存目的調査や記録保存のための発掘調査等を実施
- ⑩重要文化財天徳寺保存修理事業 25,200千円  
重要文化財天徳寺の本堂・書院の解体を伴う大規模修繕への助成